

全農薬通報

No301

平成 28年2月 20 日

目 次

◎主な行事予定

- ・全国農薬協同組合
- ・植物防疫関係団体

◎組合からのお知らせ

- ・組合員の動き等
- ・組合員の動き等

◎松木三男前全農薬理事長のお別れの会

◎全農薬ひろば

- ・アネモネ



全国農薬協同組合

〒101-0047 東京都千代田区内神田 3-3-4 全農薬ビル

電話 03-3254-4171 FAX. 03-3256-0980

<http://www.znouyaku.or.jp> E-mail: info@znouyaku.or.jp

「全国農薬協同組合」

2月26日(金)	全農薬受発注システム利用メーカー協議会
4月14日(木)	全農薬第275回理事会
7月15日(金)	安全協「農薬シンポジウムin 滋賀」
8月26日(金)	安全協「農薬シンポジウムin 静岡」
9月(未定)	安全協「農薬シンポジウムin 愛媛」
9月15日(木)	全農薬第276回理事会
10月下旬	第4回農薬安全コンサルタントリーダー研修会
10月21日(金)	全農薬監査会
11月15日(火)	全農薬第277回理事会
11月16日(水)	全農薬第51回通常総会(第278回理事会) 安全協第39回全国集会(海運クラブ)
12月8日(木)	全農薬第279回理事会

「全国農薬業厚生年金基金」

2月24日(水)	理事会、代議員会(全農薬会議室)
4月15日(金)	委員会(全農薬会議室)

「植物防疫関係団体」

●農薬工業会

5月18日(水) 通常総会・講演会(鉄鋼会館)

●日本植物防疫協会

3月25日(金) 第14回理事会((一社)日本植物防疫協会会議室)

●農林水産航空協会

3月17日(木)第159回理事会(都道府県会館会議室409号室)

●報農会

3月7日(月)平成27年度第2回理事会(花小金井(公財)報農会事務所)

関係団体(全肥商連、全農機)

●全国農業機械商業協同組合連合会

2月25日(木)創立60周年記念式典(明治記念館)

お知らせ

「第8回環境保全型農業シンポジウム」「第19回日本バイオリジカルコントロール協議会講演会」共催シンポジウム

日時：平成28年3月2日(水)、11:00~17:50

場所：東京大学「伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホール」

アクセス：<http://www.u-tokyo.ac.jp/ext01/iirc/access.html>

1. 平成28年度農薬工業会賀詞交歓会

- ・日時：平成28年1月5日（火）、12時30分～14時30分
 - ・場所：経団連会館2階「経団連ホール」
 - ・出席者：青木理事長、宇野副理事長
- 平成28年農薬工業会賀詞交歓会平田会長挨拶



新年明けましておめでとうございます。

皆様には、ご家族ともどもお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は農薬業界にとり大変厳しい年となりました。ここまでの牽引役でありました世界市場が12月末の推定で売上前年比8.5%減、実質でもマイナスと見込まれ

ております。この十年程で2倍弱の7兆円台へと躍進してきた経緯もあって少々ショッキングな数字となりました。

国内に目を向けますと、同様に2015農薬年度の売上前年比は97.6%であり、特に水稻分野では95.0%と最も減少致しました。昨年水稻作況指数は全国平均100でしたが、東高西低となり、特に九州・四国では6月以降の断続的な低温・日照不足や台風等の影響により96と「やや不良」という結果となりました。

また、病害虫関連では、海外からの侵入病害虫であるジャガイモシロシストセンチュウやミカンコミバエの新たな発生があり、更に、帰化雑草が農耕地・非農耕地を問わず問題化してきています。今後も、グローバルな農産物の動きとともに、世界的な気候変動に伴う異常気象が想定され、新たな展開に応じた検疫・防除体制の強化と防除薬剤への要望に適切に対応して行くことが求められています。

農業行政では、昨年策定された「新たな食料・農業・農村基本計画」において、食料自給率を引き上げる目標を設定するとともに、TPP協定が大筋合意に至り総合的な関連政策大綱が決定されました。なかでも、農林水産業に係る体質強化対策では、4年後の農林水産物・食品の輸出額一兆円目標の前倒し達成を目指すとされています。農業従事者の高齢化・担い手不足、耕作放棄地の増加等の様々な課題のあるなか、効率的な食料生産が益々要望され、収量増・品質確保・省力化を支える農薬の重要性が再認識されるものと考えています。当会としましても、これらの要望への対応を進め、我が国そして世界の農業に貢献したいと願うところです。

一方、食の安全は国民の大きな関心事であり、特に農業現場で使用される農薬の安全は消費者の方々にとって重要な注視項目の一つであります。私ども農薬メーカーは常に細心の注意と最新の科学技術を駆使して高い安全と安定した効果を有する製品を開発して生産者に提供していますが、残念ながら消費者を始めとした皆様方に十分に理解を得るには至っておりません。当会では農薬の安全に係る広報活動として、まず第一番目に消費者に向けた情報提供活動である「農薬ゼミ」の開催に加え、毎年10～12月にBS-TBSにて5分番組を放送しています。昨年はオーディーヴを起用し『知っとくベジライフ』と

のタイトルで放映致しました。第二にメディアへの活動としてジャーナリストを対象に情報交換会を開催、そして第三に教育関係者への活動として家庭科教職員などを対象にセミナーを開催しています。特に、家庭科教職員セミナーは、子供たちへの正しい食の安全に関する情報発信につながるため、今後もより一層注力する方針です。

本年は、これらの活動に加えて、2013年に定めた農薬工業会将来構想であるJCPA VISION 2025により、新たな局面を迎える日本の農業を意識して「食料生産の重要性と農薬の役割」について、3つの対象に向けて情報発信していきます。一つは、足元の会員各社内及びその周辺、二つ目は農業者・流通関係者を対象にし、農薬ナビゲーター活動と称しております。そして三つ目はアカデミア対象です。農薬ナビゲーター活動では、日本の食料を支えるのは農家の方々という期待をこめたメッセージをも伝えていきます。また、アカデミア活動では学会開催時にランチョンセミナーを提供し農薬の重要性について再認識していただく所存です。

従来からの広報活動、それに加えて新たな3方向への情報発信により、ステークホルダーとの信頼関係を構築し、『安全の先にある安心』を獲得することを目指していきます。

本年の干支は丙申(ひのえさる)ですが、これまでの努力が形になっていく」と言った意味とされています。当会としては、一昨年昨年で築いた基盤を形あるものとして飛躍の年にしたいと思っております。皆様方の引き続きのご支援、宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご参加いただきました各社・各団体の益々のご発展と、本日ご列席の皆様方のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げますとともに、新しい年がわれわれにとりまして、明るく有意義な年であることを祈念いたし新年の挨拶とさせていただきます。誠に有難うございました。

●【来賓挨拶】

農林水産省消費・安全局瀬川農産安全管理課長挨拶概要



皆様、新年おめでとうございます。

農薬工業会会員の皆様、また本日お集まりの皆様には、日頃から、農林水産行政、とりわけ、農薬行政の推進にご理解、ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。この場をお借りしまして改めて感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、皆さんご承知のとおり、10月にTPP協定の大幅合意があり、11月には関連する大綱の公表がございました。この大綱では、我が国の農業について、ただ守るのではなく、この協定締結をチャンスとして捉え、国内市場を取り戻す、あるいは輸出を強化していくなど、成長産業化を進めていくこととされています。

このような「攻めの農林水産業」、これを実現する上でも、我が国で生産される農産物が良質かつ安全なものであることは大前提であります。昨年3月に改定された「食料・農業・農村基本計画」においても、より安全な農薬をできるだけ早期に国内の農家の方に供給するため国際的に用いられている手法の導入により、農薬登録における科学的な審査を充実すること農薬の国際共同評価に参加することなどが掲げられております。

このような中で、農薬担当部局としては、昨年11月に農薬原体の規格の設定という新しい制度の導入のための部会を農薬資材審議会に新たに設置し検討を開始しました。また、作物群単位での農薬登録に向けて、果実類の作物分類案をホームページに掲載し、現在、

都道府県や関係団体の方からのご意見をお伺いしております。もちろん制度の見直しを進めていく上では、解決すべき多くの課題がありますが、これも、5年先、10年先を見据え、将来にわたって、我が国の農業者、生産の現場に安全な農薬を合理的な価格で安定的に供給していくためのものであります。これからも、関係省庁とも連携しつつ登録制度の国際調和を着実に進めていこうと考えておりますのでよろしく申し上げます。もう一点、申し上げたいことがございます。これも、皆様ご承知のことと思いますが、昨年11月に、一部の肥料の製造業者が、当初の設計と異なる方法で肥料を製造し、結果的に表示と異なる原料や配分の肥料を長期にわたって販売していたことが判明いたしました。特に、当該肥料は有機質の原料を無機に置き換えていたことから、一部では有機JASの認定の取り消しや特別栽培農産物の表示ができなくなるなど、当該肥料を長年信用して使用してきた農業者だけでなく、消費者の信頼を大きく失墜させました。また、業界全体の信頼も大きく揺らいでいます。同じ農業資材といっても、肥料と農薬、性格も大きく異なるとは思いますが、多くの一般の消費者の方が口に入れる農産物に使用するものであること、また一度失った信頼はなかなか回復できないことは、共通であると思います。農薬メーカーの皆様にも、組織としてあるいは製造に携わる方1人1人にもう一度、資材を使用した生産者、消費者のことを思い起こす、このような意識を浸透していただくとともに自らの製品の品質管理を徹底していただくようお願いいたします。最後になりますが、今年も農林水産行政へのご理解、ご支援をお願いしますとともに、農薬工業会会員の皆様、本日ご参集の皆様にとって本年が良い年となりますよう祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

2. シンポジウム「病虫害診断を考える」

日時：平成28年1月14日(木)、10:00~17:00

場所：日本教育会館「一ツ橋ホール」

主催：一般社団法人 日本植物防疫協会

プログラム（敬称略）

テーマ：病虫害防除と農薬の適正使用には正確な病虫害診断が求められる。これまで主役であった都道府県の病虫害防除所は、人員削減が進み十分な対応が難しくなっている。民間による取り組みも収益確保が課題となる。その一方で、温暖化により新たな病虫害の発生が懸念されており、体制の立て直しが急務となっている。従来、病虫害診断は各都道府県に配備された病虫害防除所などの公的機関が担ってきた。しかし、農業予算の削減によって「多くの指導機関では組織・体制の弱体化が進んでいる」このため、現状分析とこれからの対応を考える。

開 会

「千葉県における病虫害診断の取組—現状と課題—」

千葉県 農林総合研究センター 牛尾 進吾 氏

「福岡県における病虫害診断の取組—現状と課題—」

福岡県 農林業総合試験場 成山 秀樹 氏

昼食・休憩

「農薬メーカーにおける病虫害診断の実践事例」

アグロカネショウ(株)技術普及部 美野 光哉 氏

「生産現場における病虫害診断の実践と課題」

イノチオホールディング(株)営農支援部 山内 美佳 氏

「教育現場におけるこれまでの取組みと今後の展望」

法政大学植物医科学センター 西尾 健 氏

休 憩

「生産現場が求める病害虫診断・防除指導」

JA 全農 営農販売企画部 宗 和弘 氏

「総合討論」

17:00 閉会

出席者：事務局 宮坂技術顧問

(シンポジウムの概要)



日本植物防疫協会の主催で「病害虫診断を考える」と題するシンポジウムが1月14日(木)日本教育会館「一ツ橋ホール」で開催され、国や県の行政、試験研究機関、普及指導機関、農薬企業、大学などから関係者約600名が出席した。開会挨拶で上路雅子理事長は「植物防疫の現場は温暖化や農産物流通の国際化にともなう海外からの侵入病害虫、新規就農者のサポート

など新たな課題への対応が求められているにもかかわらず、多くの指導機関では組織や体制の弱体化が進んでいる」と述べた上で、「生産現場の負託にこたえていくためには、病害虫の診断や指導の体制についても新たな工夫や仕組み作りが求められている本シンポジウムを通じて今後のあり方を模索していただきたい」と挨拶された。

最初の報告に立った福岡県では、一昨年、独立した組織だった病害虫防除所が試験研究機関と統合し、同時に病害虫診断業務を行う人員は11人から6~7人に削減されたと報告。また、千葉県では農林総合研究センターで行っているが、防除技術開発などとは異なり本来の業務と位置付けられず、専用の予算は配分されていない。また、人事異動が増え技術の継承が困難になっている。病害虫診断は、もはや都道府県の病害虫防除所で完結できなくなりつつある。試験場や普及センターなど、同じ都道府県内の関連機関との分業や、経験の浅い人材でも診断が行えるように、データベースやマニュアル類の整備等が進んでいる。こうしたなかJAグループは、専任の担当者が農業経営者の個別相談に応じる訪問活動を進めている。担当者は全国で1万人規模にまで拡大した。しかし、共済や金融出身者が任命されるケースも増え、ここでも病害虫診断に関する技術の継承が課題となると報告。

民間による取り組みとして、アグロカネショウとイノチオグループの事例が報告された。分析業務だけで採算をとろうとすると、あまりに高価になってしまうという。取り扱い製品の販売促進につながる面もあるものの、企業による診断業務が広がるには収益面が課題となっている。

全農薬組合員であるイノチオホールディングスの技術普及室山内美佳さんの報告は、商

系農薬流通の立場から診断業務への取り組みを述べられた。イノチオホールディングス



(旧：石黒製薬所)が本社内に技術普及室を設置したのは平成2年、生産者やJAなどから寄せられていた病害虫診断や試験依頼の要望が増え、それまで営業担当者が対応していた案件に、より専門的な知識と技術で応える目的だった。調査物が持ち込まれてから症状の観察、病害虫の特定、報告まで7日以内を目標とし

ている。調査報告書では、農薬や資材を販売しているイノチオグループの強みを生かし、農薬による防除や資材による環境改善などを具体的に提案している。2014年度の病害虫診断は1,617件に上った。また、迅速で正確な分析を行うための知識や技術の向上、そのための人材育成や設備投資、診断業務の有料化などについて課題を提起した。特に都道府県等の公的機関と異なり、農薬卸の場合、答えを1週間以内に出さないといけないという問題も有り、とにかく敏速性が求められているとの報告があった。また、アカデミアの立場から、法政大学の西尾健教授は、大学における農業現場で病害虫診断ができる当局的な教育の必要性を強調した。昨年、学内に植物医科学センターを立ち上げ病害虫診断を開始しており、植物防疫関連組織に連携を呼びかけた。一般的な病害虫であれば、マニュアルやデータベースの整備で、ある程度は対応できるかもしれない。より大きな問題は、新たに発生した病害虫に迅速に対応できるかどうかだ。気候変動によってそのリスクは高まっている。体制強化に向けて、既存の枠にとらわれない仕組み作りが求められている。



総合討論の様子

3. 一般社団法人 全国肥料商連合会 新春特別講演会・賀詞交歓会

日時：平成28年1月19日（火）、15:00～18:30

場所：東京ガーデンパレス

特別講演会 演題「今後の農業経営政策について」—農政新時代について

講師：農林水産省経営局経営政策課 道管 稔 氏

出席者：事務局（堀江参事、宮坂技術顧問）

4. 植物防疫研修会

日時：平成28年2月1日（月）～2月5日（金）

場所：（一社）日本植物防疫協会会議室（B1）

主催：一般社団法人 日本植物防疫協会

参加者：64人内全農薬組合員 33名

全農薬組合員で満点を取った者：山影悟史（丹波屋）、大森隆史（山陽薬品）

西原光俊（大信産業）

大変おめでとう御座いました。



女子栄養大学の「松柏軒」で情報交換会を実施。

「松柏軒」は伊達政宗公の下屋敷として築かれたもので元禄年間、徳川光圀卿がご来駕の折にこの名称をお付けになりました。

当時をしのぶ燈籠など文化的価値の高い貴重な品々が今もなお大学構内に現存されております。

5. 全農薬地区会議

平成28年全農薬の地区会議は2月3日の近畿地区を皮切りに、2月18日の北海道まで、全地区で開催された。どの会場も、午前中は組合員のみでの会合で、全農薬の概況報告、課題、全農薬に対する要望等を中心に意見交換をした。また、今回は(株)電算システムの担当者から全農薬受発注システム、全農薬のホームページの活用法等について説明して頂いた。特に、昨年12月から開始した「農薬チラシ検索ポータルサイト」の活用について丁寧に説明をいただいた。

なお、全農薬のホームページについて、本部に対する要望は多いが、「全農薬 HP」を閲覧する人の少なさにもう少し活用して頂きたい旨、青木理事長・宇野副理事長から組合員の皆さんに対し要望があった。

また、今年度から導入した「クサリノ剤」について効果的な使用法を交えた技術的説明があり、午前の部は終了。

昼食後、13時からは賛助会員を含め全農薬の活動紹介、指導農薬の説明、農薬ナビゲーター活動についての紹介、農政局担当者からの「植物防疫及び農薬関係行政について」の説明、続いて、現場で役立つ病害虫・雑草防除に関する講義が2講義あり、該当者のいる地区については「農薬安全コンサルタントリーダー」の認定書授与と「農薬安全コンサルタントリーダー」代表者による挨拶、最後に地区の代表者による閉会挨拶。で、地区会議を終了。

「近畿地区」

日時：平成28年2月3日(水)、10:30~17:00

場所：大阪ガーデンパレス

参加人員：組合員、事務局(26名)、賛助会員他(28名)

出席者：宇野副理事長、橋爪地区長、金田理事

事務局(堀江参事、山本副参事、宮坂技術顧問)



●地区会議初日、やや硬さが残る中で挨拶する宇野副理事長

「中国・四国地区」

日時：平成28年2月4日(木)、10:30~17:00

場所：メルパルク岡山

参加人員：組合員、事務局（58名）、賛助会員他（27名）

出席者：宇野副理事長、大森地区長、松村地区長、佐伯理事、田中監事
金井監事、事務局（堀江参事、山本副参事、宮坂技術顧問）



○季節がら風邪対策に万全の体制で講義を聴く組合員の皆さん

「九州地区」

日時：平成28年2月5日(金)、10:30~17:00

場所：火の国ハイツ

参加人員：組合員、事務局（50名）、賛助会員他（18名）

出席者：宇野副理事長、田中地区長、宮崎理事、安部理事
事務局（堀江参事、山本副参事、宮坂技術顧問）

何か、今年の九州地区会議は、松木三男前全農薬理事長が御出席していないせいか、寂しさを感じる地区会議となりました。

会議開始前に1分間の黙祷を故松木前全農薬理事長に捧げました。



○宇野副理事長の説明に耳を傾ける九州地区の組合員の皆さん

「北陸地区」

日時：平成28年2月9日(火)、10:30~17:00

場所：石川県農業共済会館

参加人員：組合員、事務局（55名）、賛助会員他（23名）

出席者：青木理事長、上田地区長

事務局（堀江参事、山本副参事、宮坂技術顧問）





○熱心に講義を聞く組合員の皆さん

「東海地区」

日時：平成28年2月10日(水)、10:30~17:00

場所：メルパルク名古屋

参加人員：組合員、事務局（46名）、賛助会員他（27名）

出席者：青木理事長、石黒理事

事務局（堀江参事、山本副参事、宮坂技術顧問）



○地元での力の入った青木理事長の挨拶



○睡魔に襲われつつも講義を聴く組合員の皆さん

「関東・甲信越地区」

日時：平成28年2月16日(火)、10:30~17:00

場所：東京ガーデンパレス

参加人員：組合員、事務局（62名）、賛助会員他（35名）

出席者：宇野副理事長、栗原地区長、小宮山地区長

事務局（堀江参事、山本副参事、宮坂技術顧問）



○開会の挨拶をする小宮山理事



○金子理事のピンチヒッターで司会役の栗原理事

「東北地区」

日時：平成28年2月17日(水)、10:30~17:00

場所：ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

参加人員：組合員、事務局（44名）、賛助会員他（24名）

出席者：青木理事長、佐藤地区長、山本理事、池田監事。

事務局（堀江参事、山本副参事、宮坂技術顧問）



○青木理事長の挨拶を熱心に聞く東北地区の組合員

「北海道地区」

日時：平成28年2月18日(木)、10:30~17:00

場所：札幌商工会議所

参加人員：組合員、事務局（89名）、賛助会員他（73名）

出席者：宇野副理事長、北濱地区長、木幡理事





● 熱心に講義に聴き入る組合員

警戒情報 アレチウリ(帰化アサガオよりも難防除)

警戒→防除優先No.1
 入れない! 広げない!
 非選択性茎葉処理剤・手取り

- ◆ 短日性で種子繁殖
- ◆ つる性かつ大型
- ◆ 除草剤が効きにくい

グリホサートK塩液剤の塗布処理(専用塗布器) 収穫7日前まで
 2倍希釈液 1塗布で0.1ml使用 1~3ヶ所塗布/株
 使用液量500ml/10a⇒0.5ml/m² 2株以下/m²にする必要あり

大豆畑を覆うアレチウリ(特定外来生物)

「警戒雑草 NO1」

農研機構中央農業総合研究センター生産体系研究領域 澁谷知子先生より
 アサガオより怖いアレチウリ

“絶対入れない広げない“
 徹底的に防除しないと大変なことになる。
 皆さん注意をして下さい。



●現場に役立つ病害虫・雑草防除に関する講師の先生は以下のとおり。

〔会議講演内容(講師、テーマ)〕

地区名	講演内容・講師名
北海道	<p>「農業に係る農政上の今日的課題について」 農林水産省消費・安全局農産安全管理課 農薬対策室 課長補佐 久保賢太郎 氏</p> <p>「平成27年の発生に鑑み注意すべき病害虫」</p> <p>「平成28年の普及奨励・指導参考となった農業技術の内容(病害虫関係)」 地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部中央農業試験場 病虫部長 清水基滋 氏</p> <p>「水稲除草剤をめぐる最近の情報」 公益財団法人 日本植物調節剤研究協会 北海道支部長 松川 勲 氏</p> <p>「改正航空法と農薬散布について(概要)」 北海道農政部生産振興局技術普及課 主査 中兼正次 氏</p>
東北	<p>「岩手県における近年の飛来性害虫の発生について」 岩手県農林水産部 農業普及技術課 主任 吉田雅紀 氏</p> <p>「水稲直播栽培における病害虫の発生について」 岩手県農業研究センター 主任専門研究員 菅 広和 氏</p>
関東・甲信越	<p>「最近のナシ黒星病多発原因の解明と薬剤防除の問題点」 千葉県生涯大学校 教授 梅本清作 氏</p> <p>「野菜のウイルス病(きゅうりを中心に)について」 埼玉県農業技術研究センター 生産環境・安全管理研究担当 病害虫防除技術研究 宇賀博之 氏</p>
北陸	<p>「ニカメイチュウの耕種的防除法について」 福井県農業試験場 有機環境部 生産環境研究グループ 研究員 増田周太 氏</p> <p>「本年の斑点米カメムシ類の発生状況と対応について」 石川県農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 室長 笠島 哲 氏</p>
東海	<p>「畑作難防除雑草(アサガオ)の防除方法について」 (公財)日本植物調節剤研究協会 研究所試験研究部 第二研究室 主査研究員 山木義賢 氏</p> <p>「近年の岐阜県の病害虫の発生状況について」 岐阜県病害虫防除所 技術主査 小枝俊仁 氏</p>
近畿	<p>「畑作難防除雑草(アサガオ)の防除法について」 国立研究開発法人 農研機構 中央農業総合研究センター 澁谷 知子 氏</p> <p>「現場で活かせる野菜病害虫の生態と防除について」 大阪府環境農林水産部 農政室推進課 病害虫防除グループ 副主査 梅澤裕美子 氏</p>
中国・四国	<p>「忌避剤を用いた果実吸蛾類の被害防止について」 元岡山大学資源生物科学研究所(現資源植物科学研究所) 教授 積木久明 氏</p> <p>「作物病害における温暖化の影響と対策技術」 岡山県農林水産総合センター 生物科学研究所 所長 白石友紀 氏</p>
九州	<p>「水稲除草剤等の効果的な使用法」 熊本県農林水産部 生産局 農業技術課 農業技術支援室 課長補佐 井出眞一 氏</p> <p>「大豆・麦の難防除雑草について」 (公財)日本植物調節剤研究協会 福岡試験地 主任 大隈光善 氏</p>

農薬安全コンサルタントリーダー



北海道地区(5名)



北陸地区(1名)



関東・甲信越地区(6名)



中四国地区(1名)



東北地区(4名)

1. 組合員代表者交代（敬称略）

組合員名」小泉商事株式会社

代表取締役社長の鈴木郁夫 ⇒ （新）菊地正浩
（旧代表取締役社長 鈴木郁夫は代表取締役会長に就任。）

組合員名」ミヤタネ商事株式会社

代表取締役社長の山波和義新代表 ⇒ （新）白石 淳
（旧代表取締役社長の山波和義は相談役に就任。）

2. 安全協幹事交代（敬称略）

「秋田県」

（旧）伊藤寛之（株式会社池田）⇒ （新）池田憲亮（株式会社池田）

「静岡県」

（旧）粟谷 晃（株式会社加村農薬）⇒ （新）今田加賀雄（丸十商事株式会社）

「滋賀県」

（旧）北脇二郎（株式会社高岡屋愛知川営業所）⇒ （新）村田国廣（旧に同じ）

3. 支部長交代(敬称略)

「静岡県」

（旧）粟谷 晃（株式会社加村農薬） ⇒ （新）小島弘巳（株式会社コジマヤ）



松木三男 前理事長のお別れの会

全農薬前理事長松木三男氏「お別れの会」

日時：平成28年2月19日(金)、11:30~14:00

場所：ホテル日航熊本5階 阿蘇

グリーンテック株式会社は安部社長を委員長に、故松木三男会長の「お別れの会」を開催した。挨拶で安部社長は、「グリーンテック株式会社の黎明期からその後の発展に至るまで、多大な貢献をされた」と故人の功績を讃え、「我々は松木さんのご意志を継いでより良き会社づくりに貢献することを誓い申し上げます」と語った。式には業界関係者、取引会社を中心に350人が参列した。



松木三男全農薬前理事長の遺影の前で弔辞を読み上げる全農薬青木邦夫理事長



松木さんは、九州各県における農薬卸商等の組合や公的団体の要職を歴任され、さらに農薬卸商の全国団体である全国農薬協同組合理事長として長年にわたり業界をリードされてこられた。平成7年には農林水産大臣表彰、そして平成18年には叙勲の栄に浴されたことなどが、その功績がいかに大きく、わが国農業に貢献されたものであるかの証である。

また、人柄的にもとても優れ、内に厳然たる強さとの確な判断力をお持ちの反面、他人に対しては常に温和な態度をもって接し、まさに「**作為を施さなくとも、自然に人を教化する**」と言うべき人格の方で、我々の誰もが松木さんの人間味あるひととなりになり接し、親しみとともに深い尊敬の念を抱いておりました。誠に惜しい人を亡くしました残念です。

合掌

アネモネ（和名：ボタンイチゲ）学名：Anemone coronaria



アネモネはキンポウゲ科イチリンソウ属の多年草、和名は牡丹一華、花一華、紅花翁草。

アネモネは、アネモネ属（Anemone）の総称を表すこともある。

また、学名のアネモネ（Anemone）はギリシャ語で「風」を意味し、コロナリア（coronaria）は花冠を意味する。

この花にまつわるギリシャ神話に次のような話がある。

「アフロディテとペルセポネのアドニスを巡る恋」

二人の女神は、アドニスを取り合った。芸術の女神の一人、カリオペが主催する下級裁判所に判断をゆだねられることになった。判決は、1年の3分の1をアフロディテと共に過ごし、3分の1をペルセポネと共に過ごし、残りの3分の剥ま一人で過ごしてよいというものであった。しかし、アフロディテは、判決を守らなかった。ペルセポネは怒って、アフロディテの愛人アレスに言いつけた。「アフロディテはあなたを差しおいて人間のアドニスを愛している」この話にアレスは嫉妬し、凶暴な猪を野に放した。アドニスは狩猟が大好きでアフロディテ（ヴィーナス）が止めるのも聞かず狩に出た。アドニスの犬が、大きな猪を追い出した。アドニスは猪めがけて槍を投げたが急所をはずし猪に突き殺された。



アフロディテはアドニスの死を悲しんだ。死と嘆き一生忘れないように、また、毎年思い出すようにアドニスの身体から流れる血に、深紅のアネモネを咲かせた。

アフロディテはゼウスに「アドニスが暗い冥府で過ごすのはかわいそうだからせめて春だけ私のそばに置いてください」とお願いした。

それで、今でもアネモネは春になると可憐な花を咲かすのである。アネモネは“はかない花”で、風が吹くと花が咲き、二度目の風で花弁が落ちると言われている。

参照：「ギリシャ神話小辞典」

栽培法については、実生または球根から栽培する。よほどに園芸に詳しい者でない限り、球根から栽培した方がよい。球根は直径1センチあまりの不定形の固まり

であるが、とがっているほうを下にして、9月末から11月はじめに植え付ける。株間は20cmくらい、鉢に植える場合は、

6寸鉢に3球植えにする。覆土は2cmくらい。日当たりと水はけのよいところなら、比較的よく開花する。

この花を国花にしている国：アルメニア共和国

花言葉：はかない夢